

傷寒・金匱方劑解説 02 いー1

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
いー1	葶苈湯 (千金)	<p>葶苈 (甘寒) 3g・薏苡仁 (甘微寒) 7g・桃仁 (苦平) 6g・瓜弁 (甘寒) 5g</p> <p>上の4味を水400mlを以って、先ず葶苈を煮て200mlとなし、滓を去り他の3味を入れて80mlに煮詰め、滓を去り、2回に分けて温服する。</p> <p>本方を服用して、効いてくると当に膿のような痰を吐く。</p>
	肺痿肺癰咳嗽上気病脈証併治第七第20条 (金匱要略)	
	<p>「千金 葶苈湯 咳して微熱あり煩満して胸中甲錯^{こうさく}するを治す。是れを肺癰となす。」</p>	
	<p>解説 千金の葶苈湯は咳をして少し熱があり、胸が張って苦しいという状態で、丁度胸中がただれた様な感じで、しみ透る様に痛む。これを肺癰とするのである。</p>	
	<p>胸中甲錯は、胸中が乾燥して、かさかさした感じになるものをいう。</p>	
	<p>葶苈湯は胸部の肺癰による膿だけでなく、腹壁膿癰にも使える。但し息苦しい症状、大・小便の不利があり、熱がある。</p>	
	<p>葶苈湯の葶苈は、麻黄が表位皮毛の閉塞するのを通気する様に、肺癰の鬱閉するのを通気する。苦平の桃仁は、熱により乾燥固着した瘀血を滋潤流動ならしめる。甘微寒の薏苡仁と甘寒の瓜弁 (まくわ瓜の種子) は肺熱を冷まし、膿血の急迫を緩解し、排泄を容易ならしめる。</p>	
	<p>葶苈湯証</p>	
	<p>新古方薬囊によれば「熱あり盛んに咳出で、痰に白く濁りたるものが混りて臭気あり、痰の量甚だ多く、胸中にただれたるが如き感ありて、しみとおるが如く痛むもの、熱は甚だ高き者あり、また高からざる者もあり一定せざるも熱の無い者はない。小便に色が付いて少なき者が多く、大便もよく出ぬ者多し。」と記されている。</p>	